

チャレンジ発表 発表一覧

チャレンジ発表1

10:30～11:40 第4会場(ヒスイ)

座長：佐野 邦典(横浜市立大学附属市民総合医療センター)

スーパーバイザー：渡辺 愛記(北里大学医療衛生学部)

CH1-1	内部モデルの再構築が功を奏したと考えられる 小脳梗塞の症例 一書字動作に着目して~	星 智奈美 医療法人五星会 新横浜リハビリテーション病院
CH1-2	自力摂取が可能となった重度左片麻痺・嚥下障害を 呈した症例 ~車いすシーティングを通じて~	吉成 由莉 社会福祉法人聖テレジア会 鎌倉リハビリテーション聖テレジア病院
CH1-3	「以前のように主婦業や夫の面倒をみたい」 ～目標を明確化し家庭での役割の再獲得を目指して～	佐藤 景子 医療法人社団藤和会 厚木佐藤病院
CH1-4	ライフワークに着目した目標共有の大切さ ～急性期での作業療法の役割～	濱田 剛毅 横浜新都市脳神経外科病院
CH1-5	脳梗塞後に抑うつ状態を呈した主婦に対する心理面に 着目した介入	山岡 瑞季 昭和大学 藤が丘リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター
CH1-6	皮膚筋炎を呈した症例への退院支援 ～高校生としての日常を取り戻す～	荒井 彩緒 医療法人横浜平成会 平成横浜病院

チャレンジ発表2

11:55～13:05 第4会場(ヒスイ)

座長：出口 弦舞(国際医療福祉大学)

スーパーバイザー：神保 洋平(茅ヶ崎リハビリテーション専門学校)

CH2-1	回復期リハ病棟における他職種連携を強化した Transfer Package により麻痺側上肢の使用頻度が向上した1症例	石井 ゆた香 北里大学東病院 リハビリテーション部
CH2-2	高次脳機能障害により上衣更衣が障害された症例 ～残存機能に着目した介入～	瀧谷 有紀 医療法人五星会 新横浜リハビリテーション病院
CH2-3	高次脳機能障害を呈した症例に対する、動作手順獲得に 向けたアプローチ ～靴の着脱自立を目指して～	坂本 剛一 IMS グループ 医療法人社団 明芳会 横浜新都市脳神経外科病院
CH2-4	遺伝性痙性対麻痺児への歯磨き動作の支援 ～道具・環境の工夫と保護者の協力による 毎日の積み重ねから～	加藤 実帆子 社会福祉法人同愛会 川崎市中央療育センター
CH2-5	「トイレは一人でやりたい。」に向けて介入したことで トイレ移乗動作の介助量が軽減した症例	薄井 文香 医療法人社団明芳会 横浜旭中央総合病院
CH2-6	作業周縁化が生じていた統合失調症のクライエントに WRAP を用いて改善につながった事例	葛岡 哲 医療法人財団青山会 福井記念病院

チャレンジ発表3

13:20~14:30 第4会場(ヒスイ)

座長：一木 愛子(神奈川県総合リハビリテーションセンター)

スーパーバイザー：松田 哲也(JCHO湯河原病院)

CH3-1	前頭葉症状を呈した患者に対する更衣動作獲得を目指した介入	清水 尚紀 昭和大学 藤が丘リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター
CH3-2	重度上肢麻痺を呈した急性期脳出血症例に対し、電気刺激療法とPSBの併用により上肢機能が改善した1症例	千葉 周平 北里大学病院 リハビリテーション部
CH3-3	C6-7レベルの非骨傷性頸髄損傷により箸操作が障害された症例に対する一考察	倉持 麻美 医療法人五星会 新横浜リハビリテーション病院
CH3-4	通所におけるチームでの介入から高次脳機能障害に対する気付きを促し、歩行の獲得を目指した症例	石川 あかり 医療法人社団哺育会 さがみリハビリテーション病院
CH3-5	3Dプリンターを用いた新たなストレッチボードの製作の試み ～セラピストにとって使い易いストレッチボード～	味呑 謙太 医療法人社団健育会 湘南慶育病院
CH3-6	早期から整容動作に対して家族の協力を得て介入した事例報告	島袋 晴香 医療法人社団緑野会 みどり野リハビリテーション病院

チャレンジ発表4

14:45~15:45 第4会場(ヒスイ)

座長：佐々木 祥太郎(聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院)

スーパーバイザー：藤本 一博(茅ヶ崎新北陵病院)

CH4-1	「IADL動作を獲得するために」 ～在宅復帰に行うべきこと～	西村 将人 横浜平成会 平成横浜病院
CH4-2	入院中から復職に向けた介入を行い、就労支援施設へ繋がった1症例	国沢 美咲 横浜市立 脳卒中・神経脊椎センター
CH4-3	入院中複数回転倒をしている重度注意機能障害を呈した症例が調理動作を獲得するまで	川島 瑠里子 社会福祉法人聖テレジア病院 鎌倉リハビリテーション 聖テレジア病院
CH4-4	生活場面で積極的に上肢使用を促した片麻痺の事例 機能回復に合わせた目標設定に着目して	奈良 真緒 医療法人横浜博萌会 西横浜国際総合病院
CH4-5	患者のニーズに視点を向ける事で患者主体の介入が実施できた症例	鈴木 望生 横浜旭中央総合病院